

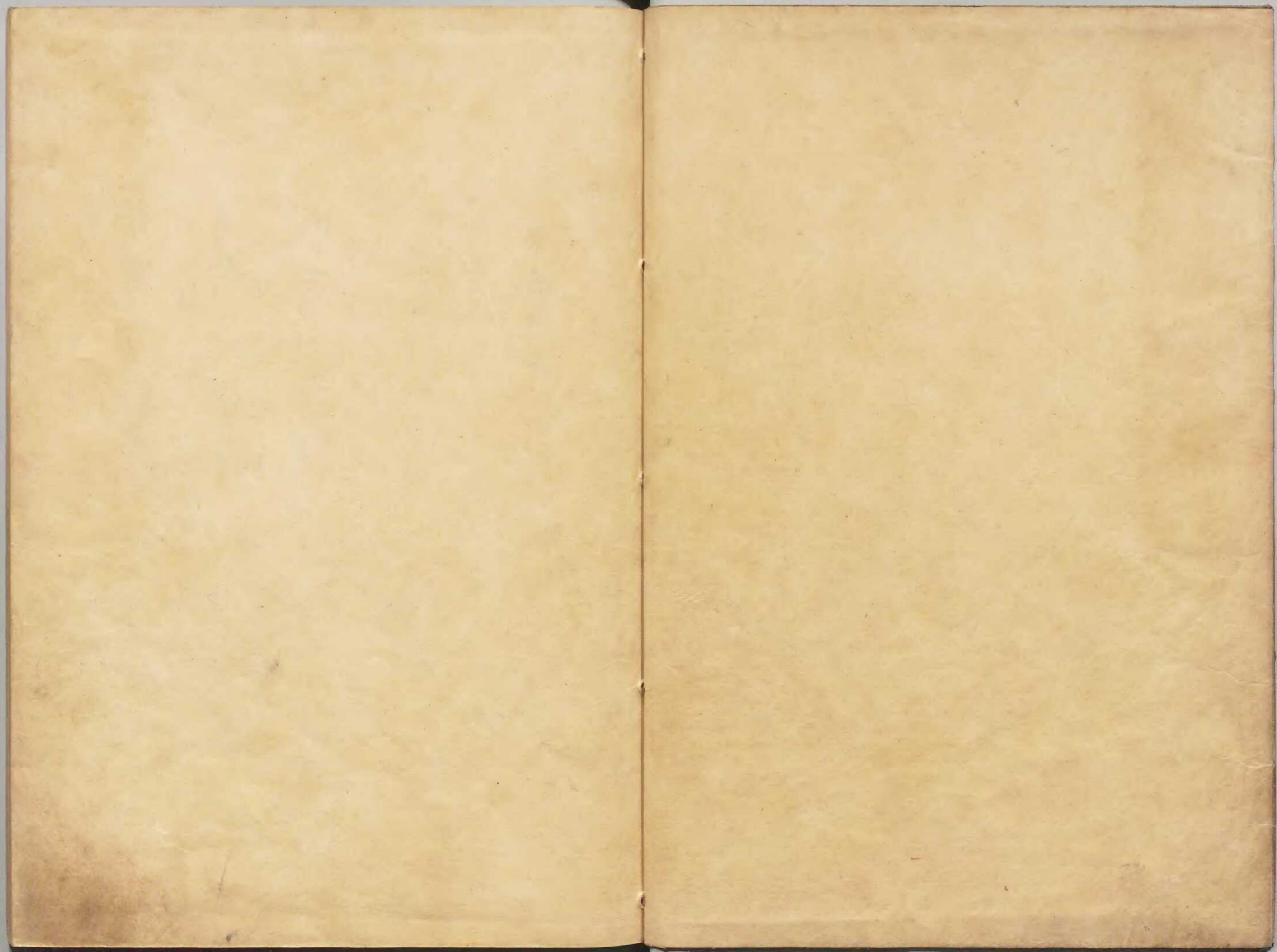
寛永諸家譜

藤原氏丙十冊之内十
秀郷流

76

内閣文庫		
番號	和	20199
冊數	186 (96)
函號	特	76 1





大織冠家
●秀郷

于常

文脩

益光

頼行

能守府將軍

安房守

益行

澗名大友

成行

足利次郎大友

家綱

次郎大友

俊綱

足利右衛門
出羽守

從五位下

忠綱 ちゅうこう

足利又右郎 あしひつまたごろう

中務丞 ちゆうむじやう

滋俊 しじゆん

依野庄司 よののしやうじ

有綱 うこう

足利又郎左衛門 あしひつまたらうざゑもん

基綱 きこう

依野右郎 よののごろう

國綱 くにこう

右郎 ごろう

實綱 じつこう

小右郎 せうごろう

成綱 なりこう

新右衛門 しんごゑもん

越前守 えちぜんしゆ

廣綱 ひろこう

右郎 ごろう

貞綱 さだこう

右郎 ごろう

資綱 すけこう

安房守 あはらしゆ

師綱 しこう

越前守 えちぜんしゆ

重綱 しげつな

右馬助 みぎうますけ

季綱 せいつな

近将監 ちかえのりけん

院を淨居と号す いんをじやうきよとごうす

盛綱 もりつな

小右衛門 せうゑもん

越前守 えちぜんしゅ

法名徳昌 ほふなとくさう

秀綱 ひでつな

小右衛門 せうゑもん

越前守 えちぜんしゅ

法名徳玄 ほふなとくげん

恭綱 きよつな

小右衛門 せうゑもん

院理色 いんりしき

法名唯禪 ほふなただぜん

豊綱 とよつな

小右衛門 せうゑもん

隼人佐 はやとりのすけ

法名忠賢 ほふなただけん

昌綱 あきつな

小右衛門

法名道一 みちいち

宗綱 むねつな

小右衛門

徹理亮 とつりりやう

女六歳少く討死 むすめはむさうにうちころす

法名長渭 ながみづ

女子一人あり むすめひとりあり

天徳寺法尔 てんとくじほうに

豊綱が二男昌綱が弟 とよつながふたごのちかづながせむい

宗綱討死のたらしき旨秀吉より法一 むねつなをうちころすのたらしきさだめしうけよしのりやういち

佐野庄を領し宗綱が娘を崇子 さののしやをりやうむねつながむすめをたかこ

とて信吉に嫁し佐野に家督 しんきちによめしさのにけあか

をゆづる

信者

後理太史

實は富田友をが子引して宗綱督

がわ十回衆れとき秀吉一法之

佐野の家督をいぬりり従五位下

一叙其そのら

右徳院殿一法之

園原陣のとき 敬命とごわ詔將也

もつと長尾景勝を押しよ信者

随一わ

曰七年八月廿二ありて不徳を没収され

信濃乃松を一尾居也

元和八年二月十九日小めして江戸小倉

曰年七月十五日五十七歳少く卒ん

法名源忠

信者が實父富田友進將監を西切のわ

織田信長小つと信長費トて好秀奈史

秀吉此親族友位之一心次一
水西も從五位下に叙す其後秀吉乃
養ふ一つつて麻り下先此組改とる
慶長四年一一年

定細

吉兵衛 生國武苑江戸
幼少より人志ありして江戸一一あり
慶長七年父信者とあり信列

松平一一ありしき屋敷と

寛永十二年十二月十五日めされ

將軍家一一あり一あり

直次

夜一一あり

寛永十三年めされ

將軍家一一あり一あり

盛
網

し
り

春
之
虫

生
信
濃
松
本

ふ
の

家
紋
蝶

改重

佐野

成田部

本國英濃

幸右進大吏忠政

尾羽 魚山

法名宗悟

改秀

中田部 生息回あ

羽柴少将秀勝小つて秀勝約鮮國答

山浦一をひく率も地陣の好伏見

小をひく

東照大権現子孫謂一つくまらるる

参上十四年十月言武列に小

をひく死も宗室十二 法名道安

改政

外記 城列伏見一いさ家

参上十四年

名徳院殿一法入くまらるるのら

將軍家一法入海つる

寛永六年八月廿九日に一いさ家

死も宗三十一 法名宗活

改勝

玄田郎 生息同和

寛長十二年

將軍家小法久くまひさ

寛永元年七月七日江戸に入りて

死すすべ母は法名道寛みちかん

改一

生息者 生國なまくに小法くまひさ

寛長十五年しほご後河大納言ごうごう忠長ただなが令し出です

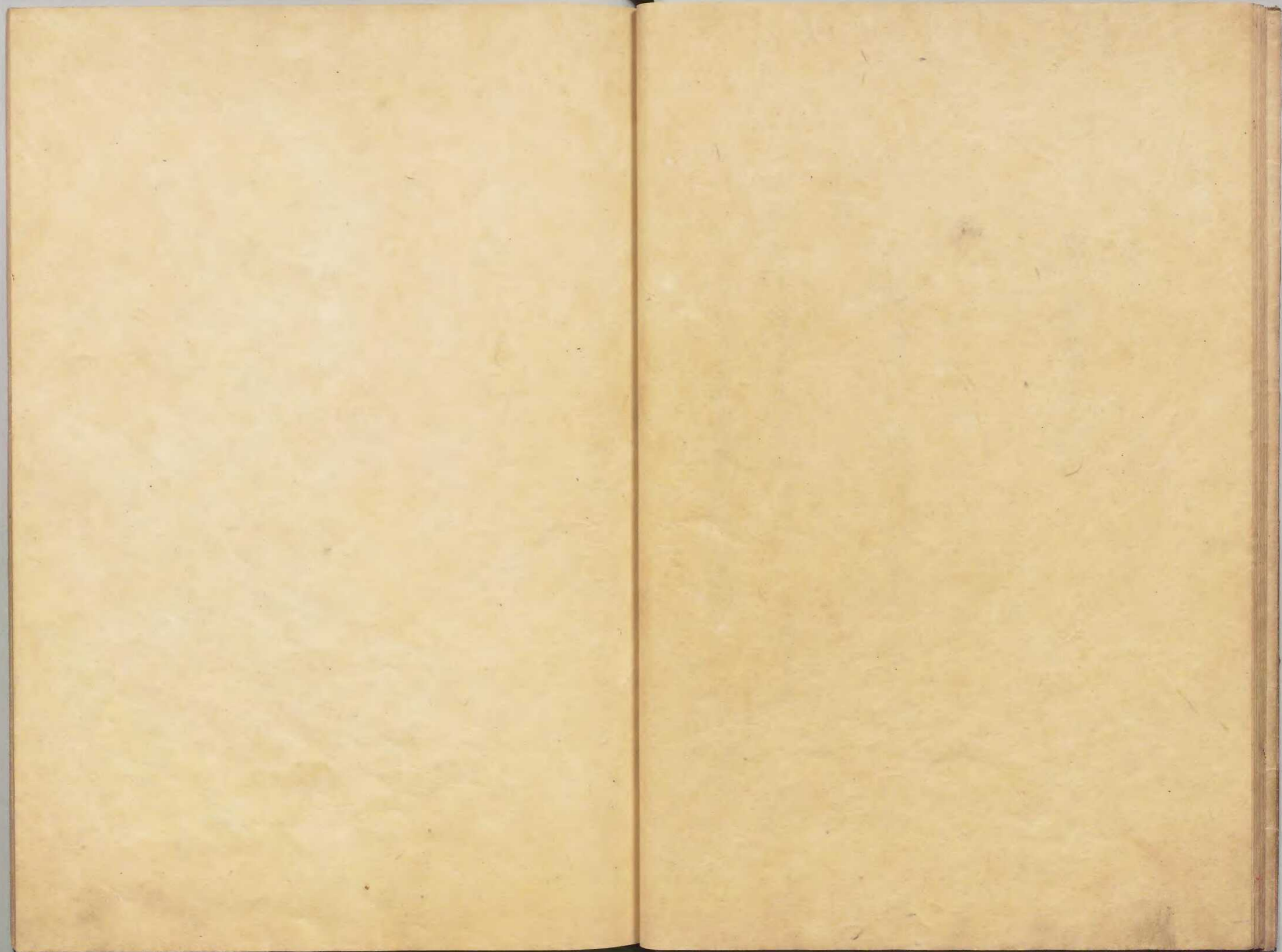
正正

將軍家しほご一いち法久くまひさ

寛永十五年しほごめめききねね

大京免おほみやまひ 從五位下しゆご一いち叙しよ

家紋地目よのめ



正安

佐野

右の助 生國冬河 法名正庵

本領大幡ありあり

清康君より法より法あり

享祿二年 清康君牧野傳次同

傳説の合戦のとき冬列御所の

繩なはもてりをひく心安事をつて海
了る事を得こまりかるが
以て冬列下和田のらし小さりて
能く加倍をこまり

正長

長あ吏し 生國回あ

廣忠あ歸りつつまりつつ

文和七年五月二十日あ 蘇そ九く十じ三さん

正長

浩あ右う吏し 生國回あ

東照あ大だい權けん現げん

名な德とく院いん殿でん了る法ほ之の法ほ之の法ほ

寛永三年五月十六日あ 蘇そ九く十じ三さん

正長

丸あ右う吏し 生國回あ

大権現

右徳院殿より法久しくまじりて
將軍家より法久しくまじりて

寛永十五年五月十日卯刻申酉卒七

改次

九右衛門

生國武苑

正室や一なびく子少きも實は
大次賀とて史元成が子なり元成が

父大次賀在去未元帝ハ生國冬河

大権現より法久しくまじりてそのら

思濟二郎信康より法久しく元和

二年九月間より死す年八十二

元成と

右徳院殿より法久しくまじりて
内成院理元が

与力も今

將軍家より法久しくまじりて大次賀が

家乃紋九曜

寛永十五年十二月より改称
將軍家より法久とてなる

改宣

と八部 生國武苑

白徳院殿より法久とてなる

將軍家小法久とてなる

番乃組改とてなる

改之

五兵衛 生國武苑

白徳院殿

將軍家より法久とてなる

改改

十三郎 生國播磨

寛永九年

將軍家より祥謁とてなる

同十二年大所番を法心

家世紋木凡

● 正 正

依野

肥後守 従五位下 生國河内

くどめは三好山城守が少くあり

あつらひはら豊長秀次より流る

そのらめいしぐれ

東照大権現小法師くつろり了 近江

上総西國にうらりてをひて食邑
をうらり

慶長五年圓原河陣乃とき伏
見れ城に於て討死す十七歳

右總

白馬 生國山城

大権現

白蓮院殿に法入りてまうり相列の

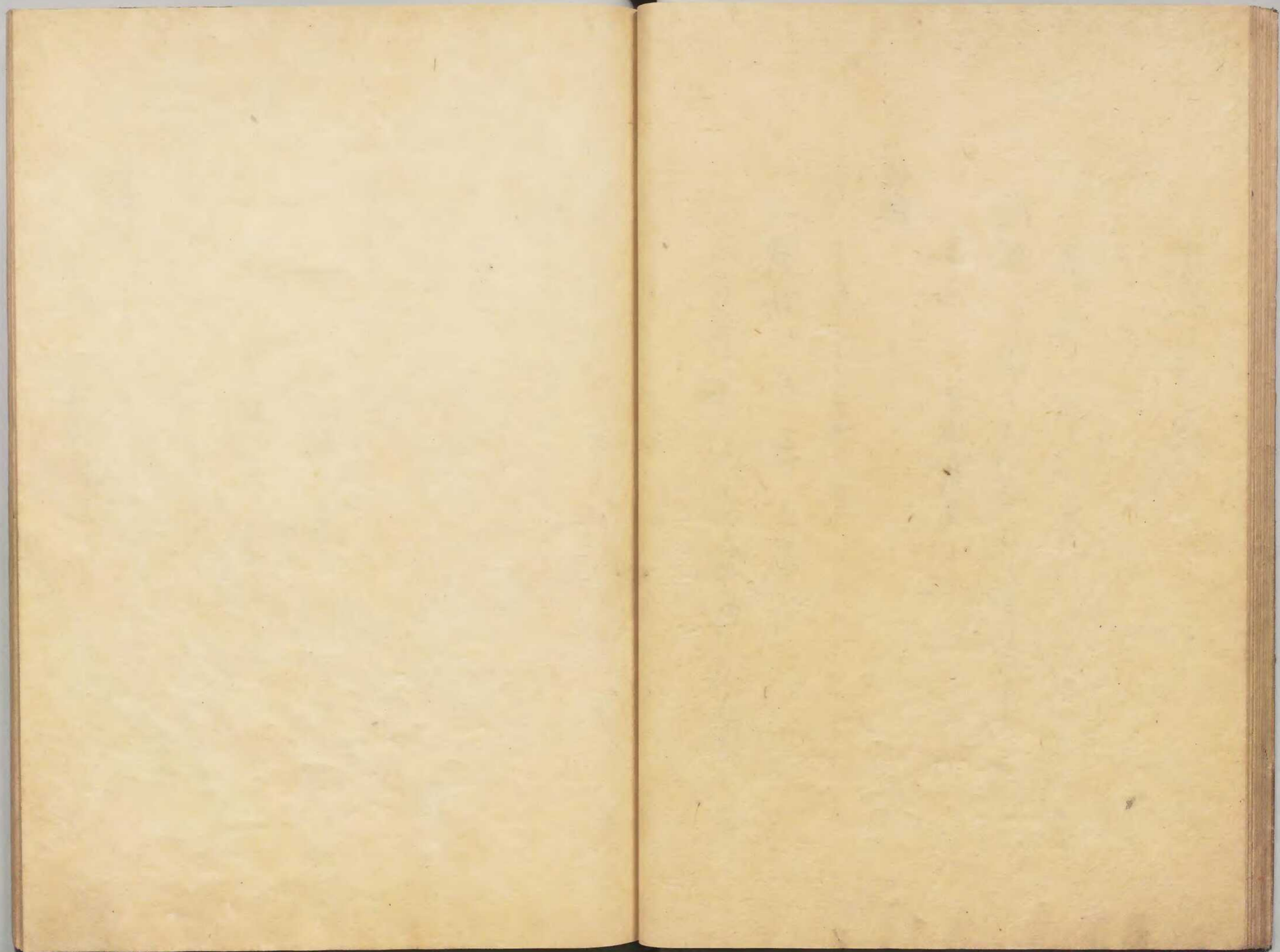
うらりてをひて食邑をうらり
元和七年三十五歳少て死す

安總

白馬 生國武苑

將軍家より法入りてまうり

家改三以次巳



正世

しんせい

たを

生國同家

正初

しんそ

兵右衛門

生國後河

甲列穴山梅雪一法

依野

梅雪うめせう一いち法はふ子こ

正室せいしつ

平兵衛 生國いこく同どう家け

東照大権現とうしょうだいこんげん小法せうはふ入いりりくくままつつるる

慶長けicho十四年じゅうしにねん 治ちりりくくままつつるる 伊い豆まめ是ぜれ

國くにのの海うみ代しろ官くわんををつつくくししままののりり

白徳院はくとくいん殿のり

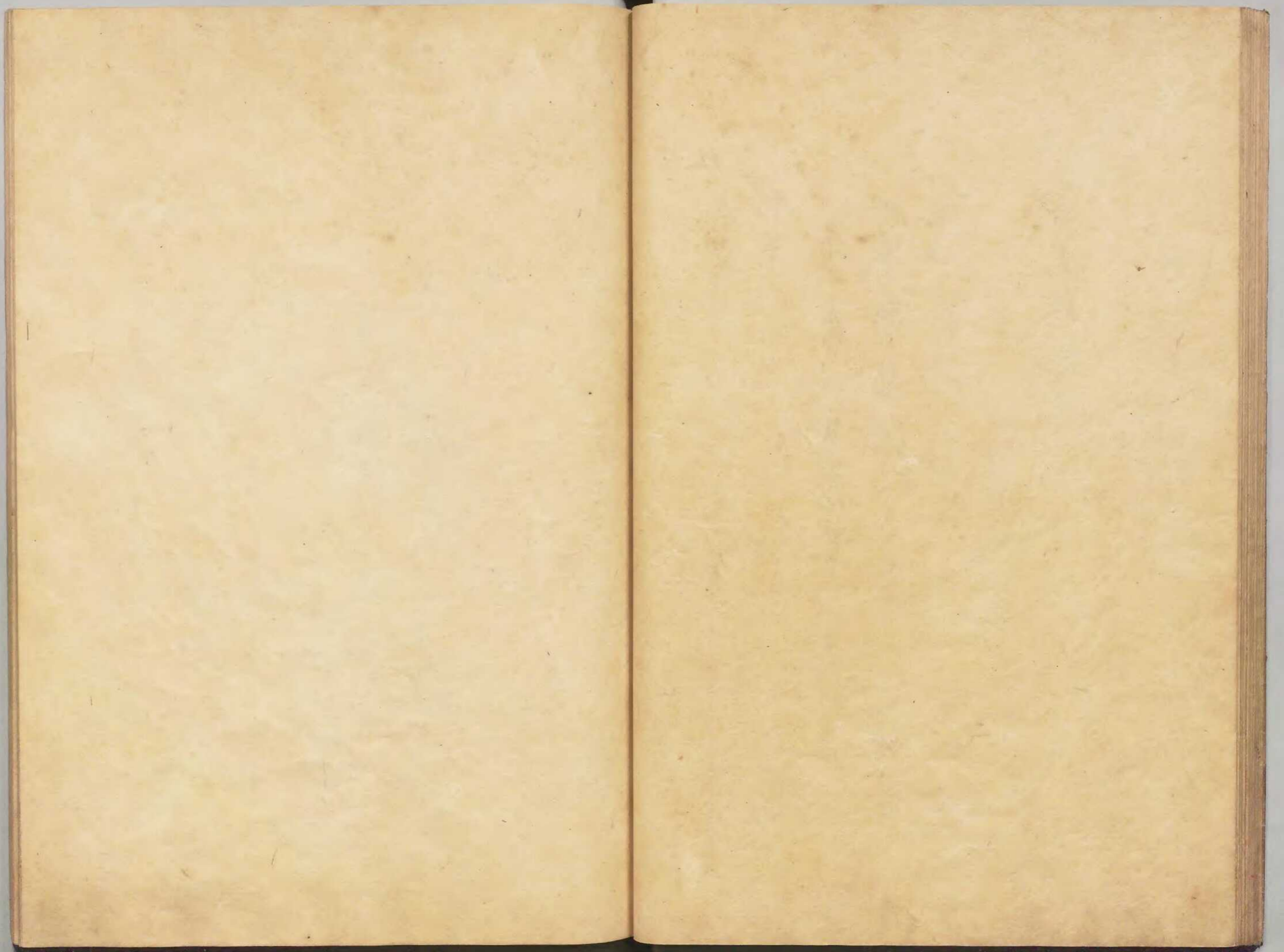
將軍家しやうぐんけ小法せうはふ入いりりくくままつつるる

正勝せいしやう

平十郎 生國いこく伊い豆まめ是ぜれ

將軍家しやうぐんけ一いち法はふ入いりりくくままつつるる 伊い豆まめ是ぜれ

家紋けもん梶かぢ系けい



政信

大次賀与助

生國冬河

累代 御先祖 一法 子 川 家

依野

いふに大次賀と稱す政信
いふに依野と号す

改次

大次初美と助 生國同あ

東照大権現より法入るるよりより

木村世をうるるよりより思濟三郎

信康より法入

慶長十九年五月より一尺を奉

八十五

家紋九曜

改次

次郎兵衛 生島武苑

元和八年六月三日外留依禮傳在為

正長をこのて

台徳院殿小深謁しつくりし向

く乃中を旧氏を改正長が氏をす

家紋本紙

● 康定

松田

筑前

生玉肥前

相列しやうりつししををもも心こころにに小こ條じょう氏し康かう了りょう

属しゆををははいいととそそ氏し康かう康かう乃の字じととゆゆりり

小こ田た系けい了りょうををひひくく了りょう

康江

肥後相列小田原

小原氏康なりび小氏政小治ふ

氏康里見家廣と総別鶴巻小

合我乃先鋒ともり志ばくはとめ

氏政原武部大棟が息男系として

難少乃城を守りしむるとき康江

氏政が命りしむるとき康江

からあ毛ともふけ城りしむるとき

このと記切あゆめ氏政感幸を授

大田越花吉次りてはら康江氏

命りしむるとき康江氏

一但とならあふもとのて氏連書

つ

滋川伊豫守常列箕掃乃城り

諸翁氏並是を就取とす。氏並の先
も小條安房守殿蹟をくいにあて
康仁氏並よりく二番りり
と詔年を下知して人小勝利を
得たりはゆり勝川紋中
天正十八年小田原落城乃らなる
中納言秀康卿の拓りて
はよりつる七十奉りて

定勝

六代秀 生必同
この小條家よりは
あかき安藝守常列下書に城小
くそごもわさばくお強しうとき
定勝十六歳より七歳をまげ
ま敵軍小馬をまめくあかき
がははもの十四人を討捕定勝も

自首を得し

結城某下総國井河一お張時

定勝相つひて首をえし

中城宮某中城都宮都宮北城北城一一

之之比比合合我我一一時時定勝定勝言言ふ

えし

安田道遠安田後列後列河津河津の城の城一一在

番番一一時時定勝定勝又

言言ふ

瀧川伊豫守瀧川と氏重氏重とと考考し

定勝定勝ををああららししめめるる言言ふふ合合我我

一一級一級ををええしし

東照大権現東照國東國東御入御入國國乃乃ときときめ

一一錫錫一一時時

慶長五年慶長國原陣國原ののときとき

白蓮院白蓮殿殿小供小供ををし

大坂大坂ああ度度のの御陣御陣一一時時ををし

一一時時御旗御旗下下乃乃時時ををし

供^いを^よをつと^しの^ら

將軍家^しに^はは^くく^しの^ら

う^りて^し御^お旗^かを^りと^る

休^{やす}む

定^ま平^ら

孫^ま右^み郎

武^む藏^{ざう}江^え戶^こ小^こ海^う

白^{はく}德^{とく}院^{いん}殿^{でん}

將軍家^しに^はは^くく^しの^ら

定^ま秀^{しゅう}

七^{しち}郎^{らう}右^み馬^ま 生^{せい}國^{こく}同^{どう}前^{ぜん}

寛^{かん}永^{えい}十^{じゅう}三^{さん}年^{ねん}と^ら

將軍家^しに^はは^くく^しの^ら

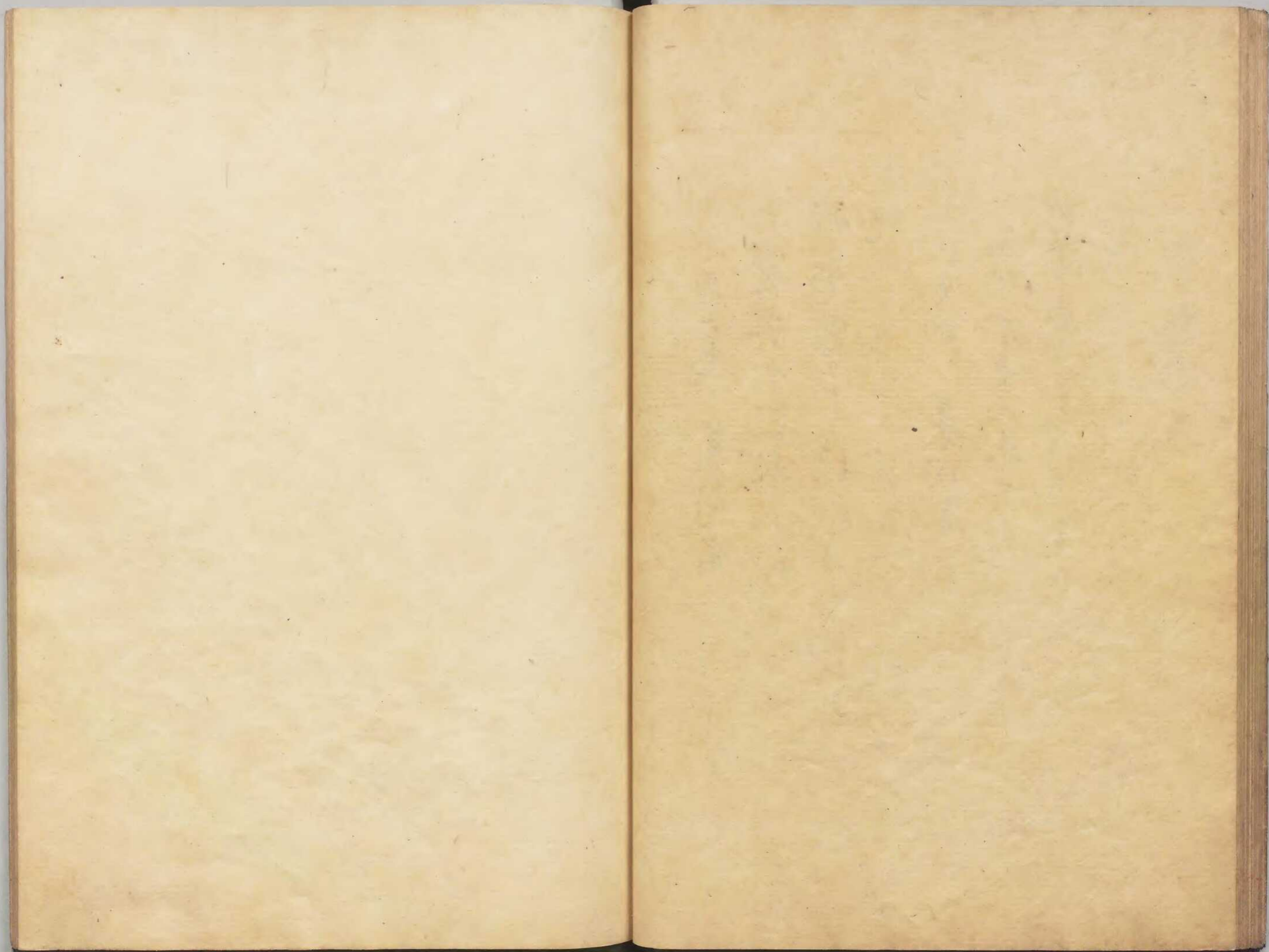
定^ま繩^{じょう}

六^む之^の助^{すけ} 生^{せい}景^{けい}同^{どう}前^{ぜん}

寛^{かん}永^{えい}十^{じゅう}八^{はち}年^{ねん}と^ら

將軍家^しに^はは^くく^しの^ら

家^け紋^{もん}筋^{すぢ}邊^へ



正氏

孫右部
法名道秀

江列守

松田

家傳小い〜將軍源義輝の松田
稱号をいまりその先祖にまびく
な〜

某

友成

生息同前

法名了榮

某

四郎次郎

生國同前

改行

備太

尾張清次

とどめ徳善院とくぜんいん云いひがもとにあや

慶長五年けichoごねん圓原陣まづらひ乃ののり

東照大権現とうしょうだいこんげん大坂おさか一いち渡わた乃の時とき十月朔じゅうがつしやく日

加か友とも成なり太たををままののくくめめ一いちととらら

改行かいぎんここままののととまま京きやう海かいのの事ことををまま

ここままふふののくく木き成なりををかかりりかか友とも

友とも成なり太た一いち法はふ名なららまま聖せい年ねん乃の事こと

よよらら不ふ司し代だい一いち副ふ

同十一年どうじゅういちねん又また月げつ又また十じゅう三さん日にち一いちてて不ふ

勝政

善太夫 仁別と淡より海
政行播政をやーなひて子とを實
野中自討が子あり
慶長八年伏見より
大指現より法入るもつり大坂夏の
御陣より徳寺を

勝居

平太夫 生息後河

寛永三年

白徳院敷より孫婿を

曰六年西丸御事院番をつとむ

家乃致 丸の内より三浪

某それ

後改うしろが実父野中のちの先祖せんぞ

野中のち 長濃ながの 揮斐ひび 小こ 一いち 海うみ

播列はく 野中のち 八郎はち 貞團まこと が苗裔なえ たり

家の紋いへ 十じゅう 日にち 紫むらさき 花はな 先祖せんぞ 忠節ちゅうせつ とぬえ

はつはつ 一いち 日にち 紫むらさき 花はな 禁中きんちゆう 小こ とひくひく 十じゅう

六むい 紫むらさき 花はな の紋いへ を十じゅう 日にち 紫むらさき と解と して給たま へ

志し 家いへ 傳でん とし 法名ほふな

道永みちのぶ

某

長濃ながの 清水しみず 一いち 日にち 紫むらさき 花はな

志し 家いへ 傳でん とし 法名ほふな 伯仙はくせん

某

新太郎しんたろう 生息せいそく 同前どうぜん

土波とぎ 五郎ごろう 一いち 日にち 紫むらさき 花はな 納戸のうど 城小じょうせう をひて

日根野ひねの 六郎むさし 志し 家いへ 傳でん とし 討捕うちはと 感書かんと 阿あ

そのころ毎年の城守が家老道家がこ
めりうしゆ

益継

自釘 生息同前

新太郎ヤーのひく子

遠列懸川に城自山内村馬守が妹を

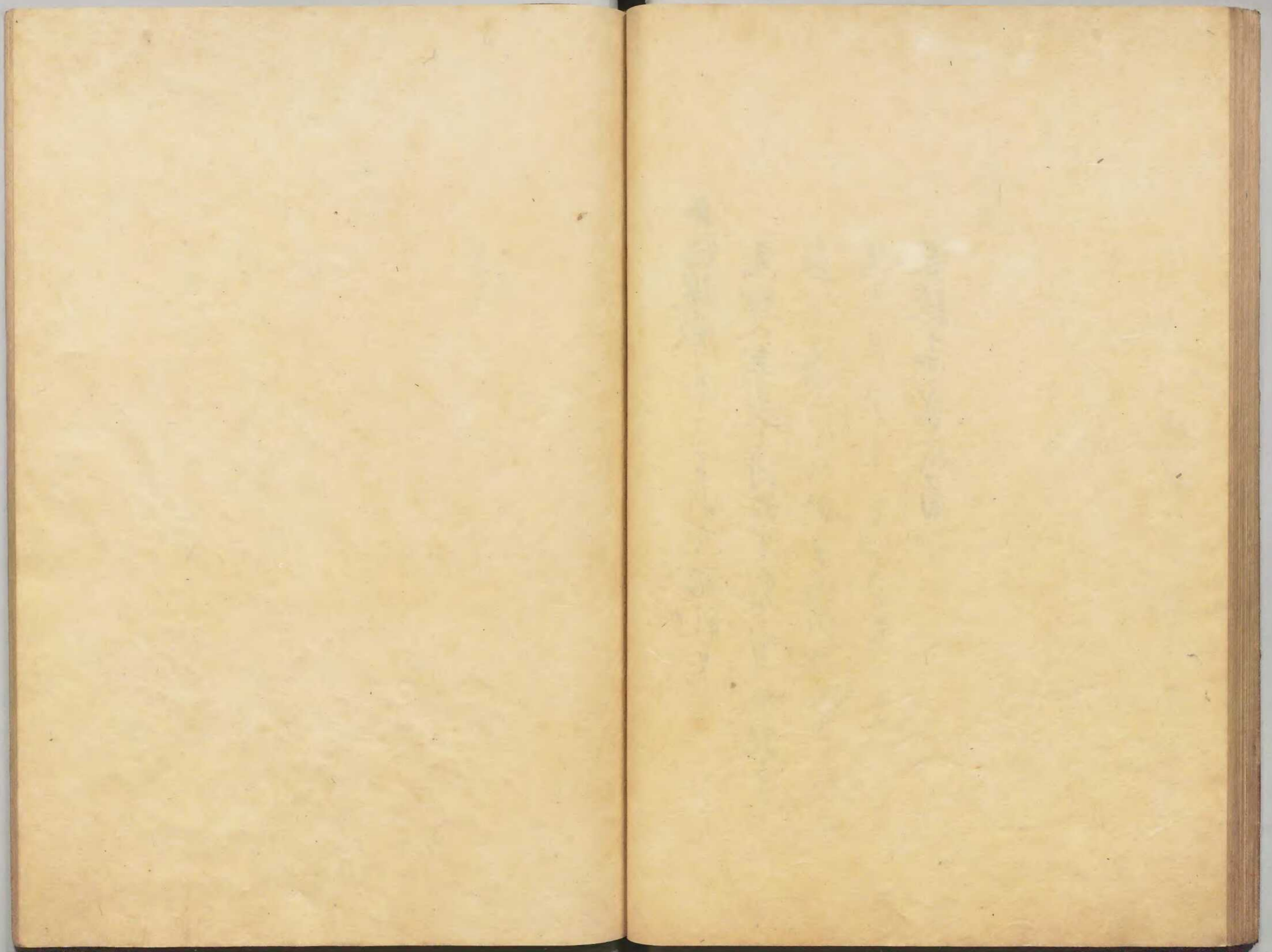
益継一姫一家属とてはゆふ町

大権現

白徳院殿一めされてお礼

元和八年十月六日卒

家紋十四系此菊



定時

高柳

新兵未 生國冬河

菅沼小大膳

八十四系

法名道

定長

新右衛門尉

生國遠江

夏浪小大膳

慶長七年

東照大権現小御

番を

寛永十六年 齡老

定清

源右衛門尉

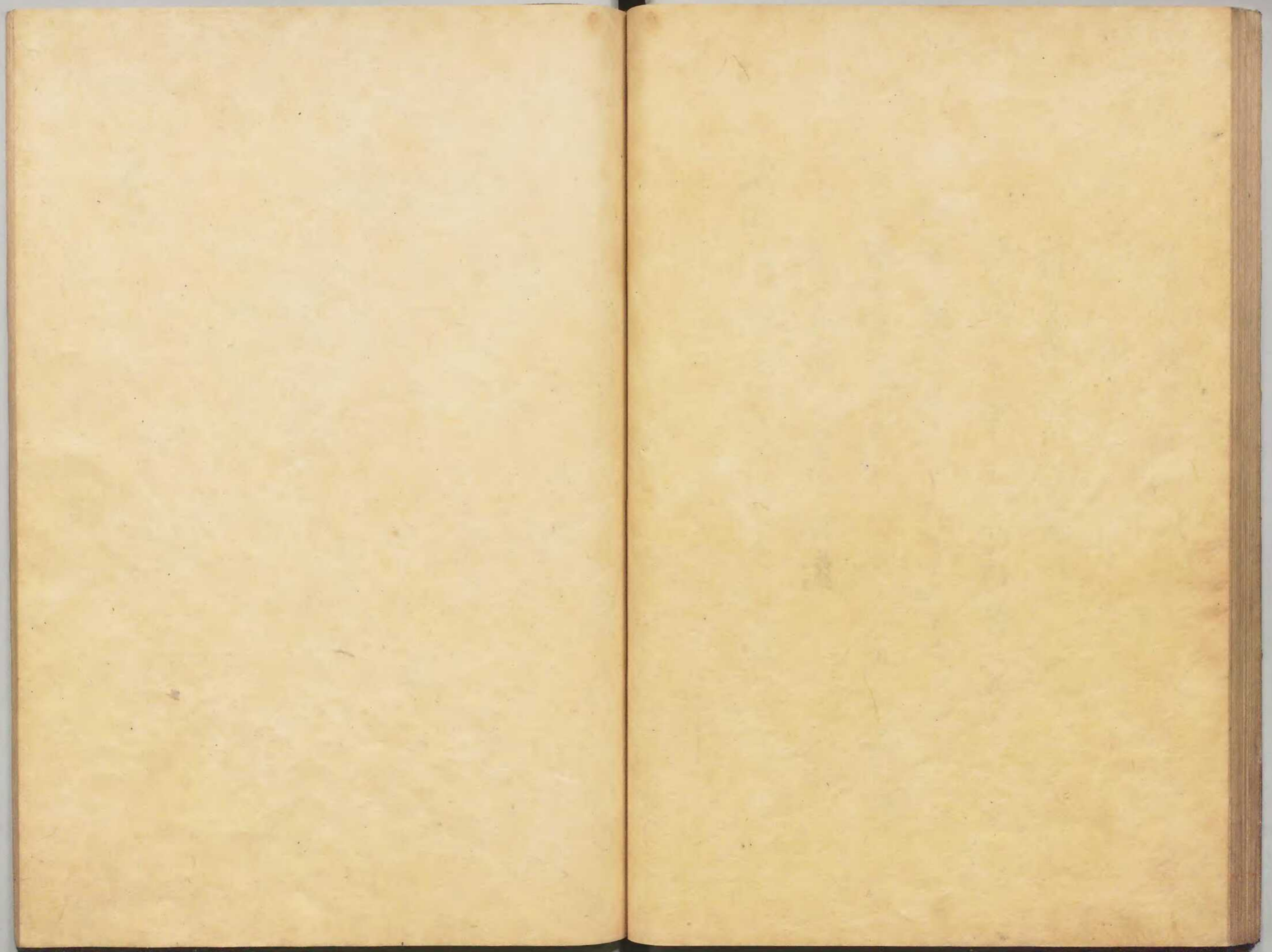
生息武藏

寛永十七年

將軍家

松平家

家の紋



いふけなりて父を改^りてをくれ
称号^{しやうごう}をいふも人^{ひと}もこのゆ^ゆり母^{はは}
とを^とりて坂井^{さかい}の称号^{しやうごう}

東照大権現

白徳院殿

將軍家^{しやうぐんけ}よりいふては人^{ひと}も

勝忠^{かつただ}

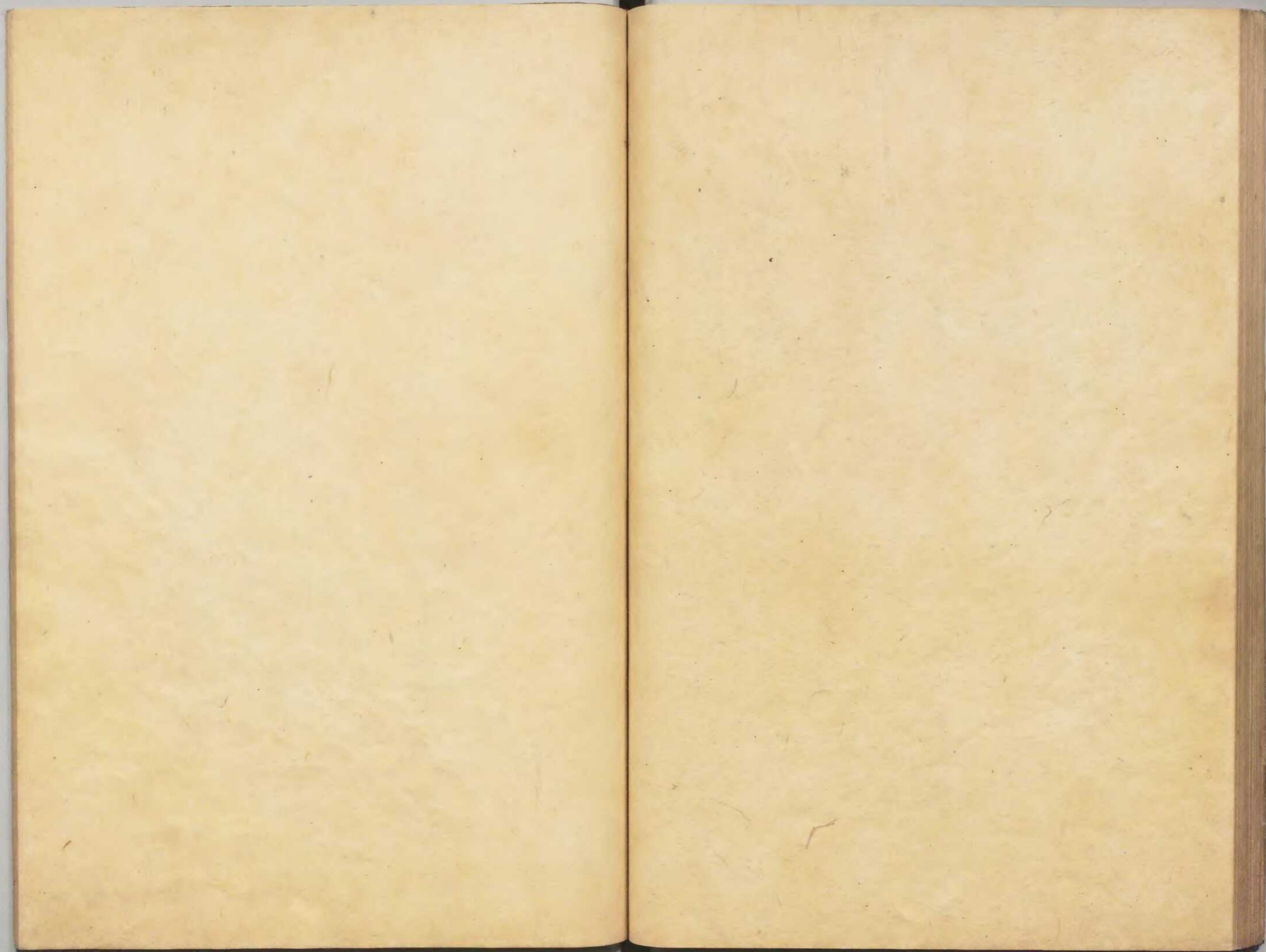
勅^{しやく}興^{きやう}未^み

生^{なま}後^ご河^か

寛永十七年

將軍家^{しやうぐんけ}よりいふては人^{ひと}も

家^{いへ}紋^{もん} 坂^{さか}乃^の丸^{まる} 丸^{まる} 内^{うち} 二^{ふた} 引^ひ 但^た母^{はは}が家^{いへ}の紋^{もん}



山ヤマと

家傳ケデンよりいへば先祖マゼを法奥守秀彌ホウオウシウミチが
に譲シユかりたれども記録キキョク紛マシ々シよりいへば
その家系ケケイはまむかひの忠勝チユウカチと
を御嶽ミツタケと称ナヅケし山と云右史尉忠次ウヂノサヅが
度タビ才サイころふよりいへば御嶽ミツタケとあつた
め山と号ナヅケす

● 秀定 ひでやす

河嶽五郎左衛尉

定重 ひでしげ

右京助

義清 よしか

修理大史

清忠 ひでたけ

治部少輔

通俊 ひでとし

但馬守

盛定 ひでなり

清文部

俊時 ひでとき

長濃守

定久 ひでひさ

新六郎

重俊 ひでしげ

源左衛尉

定秀 ひでひで

冬河守

盛吉

新左衛門

松若

十三歳少て死す

義定

兵庫助

松若は世よりつとく兄盛吉が

家督をつと

秀信

筑人

本國陸奥

此ら相列小田原より

居頃也

吉定

五郎左衛門

小條家より流人多田村もその命哉

忠勝

了とて敵兵をうらやむはゆふ
氏政感事をもさづ
そのらと列仁田木も今戦乃と
きも敵兵をうらやむあふ
らと氏政感事をもさづ
慶長十五年五月廿六日死す奉安八
法名常觀

忠勝

山上長兵衛尉 生玉相換
慶長十四年御嶽をうらやむ
山と号しとあふ
白徳院殿 相喝
同十九年元和元年大坂あ度北御
陣小供をさ

源氏為尉

生玉武苑

寛永十三年

將軍家を深こく

同十六年糶米りをまる

家の故丸まの内うち之の文字もじ

牛込

● 蕨
秀郷代

蕨阿波守

鎮守府將軍

頼行

鎮守府將軍

兼行 とみゆき

別名大友 わかたけのな

安房守 あきののり

成行 なりゆき

足利大友 あしかげのな

従五位下 よろづゐのげ

重俊 しげとむ

大坊太郎 おほのぼうのちやう

上列大坊一任 かみりやくのおほのぼうのいちにん

成家 なりゆき

太郎 ちやう

俊行 とむゆき

太郎 ちやう

俊光 とむみつ

大次郎 おほのつちやう

光兼 みつとむ

大内少輔 おほのうちのすけ

光重 みつしげ

大次郎 おほのつちやう

光之 みつゆき

大次郎 おほのつちやう

重清

太郎

重三

次太郎

重國

五郎

重行

齋少輔

重行と列大相

乃り武列牛込

天文十二年九月十七日

七十八 法名宗冬

勝行

齋少輔

小原氏康

天文十三年武列牛込

を建を

弘治元年正月六日（弘治元年正月六日）氏康（氏康）より一書にて
大朝臣をあらわさぬと申す（大朝臣をあらわさぬと申す）
しき氏康も幸と勝河小あしき
書いし小不持も法之入（書いし小不持も法之入）きく揚河武列
牛込今井橘田日尾屋下総乃堀切
子繁を飲して法録より牛込に
居候より小改下稱号と云
天正十五年七月廿九日小孔氏年八十五
法名清雲

勝重（勝重）

秀次郎（秀次郎） 正之右衛門少輔（正之右衛門少輔）

小幡氏重（小幡氏重）より一属（一属）

天正十二年九月十八日勝河が遺詔を法
ぐこのとき氏重より家督相承れ事（このとき氏重より家督相承れ事）を
勝重より一書（勝重より一書）

日十八年（日十八年）菅長秀吉相列小田原をせ
先小幡一族ありびくせらり（先小幡一族ありびくせらり）勝重より一書（勝重より一書）

